

平成27年度

優れた教育活動表彰

1 学校（15校）

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
松江市立島根小学校	伊 達 昌 史	<p>平成25～26年度体力向上推進モデル校として「運動の楽しさに触れ、コミュニケーション能力を育み、進んで健康・体力づくりに取り組む児童の育成」を研究テーマに取り組んだ。</p> <p>楽しみながら運動することと、基礎的な動きを行うこととの両者を融合させることで、児童にとって楽しく魅力的な体育学習とした取組は、他校の実践に大きな示唆を与えるものである。</p>
安来市立島田小学校	荒 金 修	<p>平成25～26年度学習と評価実践研究事業の指定を受け、従前から実践していた学び合いの活動に加え、思考力・判断力・表現力の育成を目指して、「思いをもち、ともに学び合う子どもの育成」を研究テーマに取り組んだ。</p> <p>研究教科を算数科と外国語活動とし、子どもの能動性を活かした子ども中心の授業の実践や振り返りカードを活用するなど子どもの思いを汲み取る実践を行った。</p> <p>こうした実践による学力の定着や学習意欲の喚起、学習集団づくりの成果は、他校の実践に大きな示唆を与えるものである。</p>
奥出雲町立亀嵩小学校	安 部 茂 寿	<p>平成25～26年度体力向上推進モデル校として「ふるさとを愛し、進んで楽しく運動に取り組むかめっ子の育成」を研究テーマに取り組んだ。</p> <p>「体育の授業づくり」、「運動の日常化・生活化」、「健康づくり」を柱とし、保護者を巻き込んだ実践的研究を行った。</p> <p>家庭と連携した基本的生活習慣の確立や自分で作る弁当の日などの食育の取組は、児童の自己肯定感の育成や保護者の意識の高まりにつながるなど、大きな成果を上げている。</p>
奥出雲町立八川小学校	岸 本 康 宏	<p>ふるさと八川の「ひと・もの・こと」を取り入れた教育活動を基本としながら、海外の学校との交流を積極的に取り入れ、豊かな心の育成を目指す教育を進めている。</p> <p>平成23年度からは「日米友情の絵プロジェクト」に参加、平成24年度には、ベトナムのグエンクエン小学校とフレンドシップ校協定を締結、さらにはアメリカの高校生との交流会を開催するなど海外の学校や人々と積極的に交流し、文化の違いを体感するとともに英語によるコミュニケーション力を養う教育を行っている。</p> <p>こうした取組は、他校の実践に大きな示唆を与えるものである。</p>

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
美郷町立大和小学校	堀 尾 亮 介	<p>「自他を大切にするとともに高め合い、主体的に行動する子どもの育成」を研究テーマに一人一人の人権が尊重される学校づくりに取り組んだ。</p> <p>人権が尊重される学び合いの授業づくり、地域の方々との交流活動、全校縦割り班での異学年交流を通じて、児童だけでなく、保護者や地域住民等にも人権意識の高揚が図られるとともに学校・保護者・地域の連携が深まるなどの成果を上げた。</p> <p>なお、平成25～26年度文部科学省人権教育研究指定並びに島根県人権・同和教育研究指定の発表会において、その成果を発表した。</p>
津和野町立津和野小学校	秋 好 俊 則	<p>平成24～25年度文部科学省人権教育研究指定校並びに島根県人権・同和教育研究指定校として「仲間と語り合うことを通して、主体的に判断し行動できる児童の育成」を研究テーマに取り組んだことを契機として、全ての教育活動の中で、児童が所属感を持ち、存在感を認め合うような集団づくりと学校環境づくりに努めた。</p> <p>子ども同士が語り合うことを大切に、児童相互のかかわりを充実させることで、主体的な学習活動を積み上げており、児童一人ひとりの学力育成に大きな成果を上げている。</p>
津和野町立青原小学校	藤 井 寛 巳	<p>平成25～26年度健康とメディアリテラシー育成のための調査研究モデル校として「学校・家庭・地域の連携協力による児童の基本的な生活習慣の改善と豊かな心の育成～メディアリテラシー能力を生かした家庭のルールづくりを通して～」を研究テーマに取り組んだ。</p> <p>日原地区の全小学校による学習交流会において授業を実施したり、小中学校合同PTA研修会を実施するなど、地域を巻き込んだ取り組みにより、児童及び保護者のメディアに対する意識改善につながるなど大きな成果を上げている。</p>
隠岐の島町立中条小学校	佐々木 朗	<p>平成25～26年度体力向上推進モデル校として「課題意識を持ち、主体的に健康・体力づくりに取り組む児童の育成」を研究テーマに取り組んだ。</p> <p>認知的活動を効果的に取り入れた単元構成モデル構築や体育ノートやミニマム表の活用により質の高い体育授業を実施し、児童が主体的に取り組む習慣を定着させた取組は、他校の実践に大きな示唆を与えるものである。</p>

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
隠岐の島町立有木小学校	山 根 久美子	<p>地域と関わる様々な体験活動を重視した「特色ある教育活動」を継続して行っている。</p> <p>保護者や地域の方と連携し「田植え・稲刈り・餅つき体験」や田おこし後の水田での「どろんこ運動会」、野菜生産者の方との「野菜作りやちまき作り」、約35kmを1泊2日で歩く「徒歩旅行」など、発達段階に応じた体験学習を継続実施している。</p> <p>こうした取組は、体験学習を柱としたキャリア教育の実践に大きな示唆を与えるものである。</p>
大田市立第一中学校	柿 田 丈 仁	<p>平成25～26年度体力向上推進モデル校として「生涯にわたって運動に親しむ生徒の育成～運動が苦手・嫌いな生徒へのアプローチ～」を研究テーマに取り組んだ。</p> <p>授業導入時にビートランニングやサーキットトレーニングを取り入れたり、ダンスインストラクターやプロバスケットボール選手などから直接指導を受ける機会を設けるなど、運動が苦手・嫌いと感じている生徒たちに強い興味・関心をもたせることにつながったこの取組は、他校の実践に大きな示唆を与えるものである。</p>
安来市立第三中学校	村 本 愛 治	<p>平成25～26年度学習と評価実践研究事業の指定を受け、従前から実践していた学び合いの活動に加え、「思考力・判断力・表現力を育む、スモールステップ評価を生かした学習指導の工夫」を主題に目標と指導と評価の一体化について研究を行った。</p> <p>目標・評価規準・学習活動・教師の支援が関連したものとなるよう研究を進めるとともに、評価規準による個別の評価シートを作成し、生徒一人ひとりの学びの状況を捉えながらの指導は、学習評価の在り方や学力育成の取組として、他校の実践に大きな示唆を与えるものである。</p>
雲南市立加茂中学校	藤 江 勲	<p>平成25～26年度健康とメディアリテラシー育成のための調査研究モデル校として「健康的な生活習慣の確立につながる自尊感情を高める取組の推進～ライフスキル教育・集団（仲間）づくり・承認される機会の設定を通して～」を研究テーマに取り組んだ。</p> <p>自尊感情を高めることがメディアリテラシー（ライフスキル）の獲得につながると仮定し、奉仕活動など生徒が多方面から承認される場面を多く設定したり、PTAと連携した子育て研修を実施した取組は、他校の実践に大きな示唆を与えるものである。</p>

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
雲南市立木次中学校	景 山 明	<p>平成25～26年度健康とメディアリテラシー育成のための調査研究モデル校として「豊かな学びと生きる力の育成～セルフエスティームを育むライフスキルを核として～」を研究テーマに取り組んだ。</p> <p>メディアと自尊感情の関連に着目し、意思決定スキルの育成をはじめとしたライフスキル教育に取り組み、生きる力の育成を実践した取組は、他校の実践に大きな示唆を与えるものである。</p>
吉賀町立蔵木中学校	房 野 登美裕	<p>平成25～26年度体力向上推進モデル校として「食」と「運動」に関心を持ち、進んでたくましい身体づくりを目指す生徒の育成」を研究テーマに取り組んだ。</p> <p>弁当の日や食に関する講話などにより、生徒自身や保護者の「食」に対する意識を高めるとともに、教材開発や授業の公開による教職員の研修、トップアスリートや大学生との交流を通じた体力向上の取組は、他校の実践に大きな示唆を与えるものである。</p>
島根県立石見養護学校	道 下 利 治	<p>「地域の中の学校」を学校づくりのテーマとして、地域との交流を積極的に進めている。</p> <p>特に、高等部の園芸班による地域の道路の除草活動や木工班による大型ベンチの作成・寄贈など、地域の中で「働く力をつける」ことを実践している。</p> <p>また、地域の自然を守るため、放課後や休日を使って、環境美化を啓発する看板を作り、地域に設置するなど地域の方から評価や賞賛を得ることで自己肯定感を高め、積極的に行動する力を育成する取組は、特別支援学校の地域活動の実践に大きな示唆を与えるものである。</p>

(注) 上記の掲載順は、小・中・特別支援学校、かつ建制順による。

2 個人（6名）

氏名	所属・職	表彰の理由
いま わか じゅん こ 今 若 淳 子	出雲市立向陽中学校 事務リーダー	<p>平成21年度から平成23年度の3年間、島根県公立小中学校事務職員研究会の副会長として、2010島事研ビジョン策定や県の学校事務の改善、職員の資質能力向上に尽力した。</p> <p>また平成16年度から平成17年度までの2年間と平成24年度及び平成27年度に、出雲教育事務所管内小中学校事務職員研究協議会長を、平成27年度からは出雲市立小中学校事務職員研究会会長として、地域の学校事務の先導的な役割を担っている。</p> <p>長年にわたる活動は、学校運営に必要な学校事務の確立に大きく貢献し、学校事務職員の後進の模範となるものである。</p>
す やま けい こ 陶 山 桂 子	松江市立城北小学校 栄養教諭	<p>給食が「生きた教材」になり、学校での指導に生かせるよう、教科や学校行事などを踏まえて年間献立計画を作成し、これにそった献立の作成に取り組むとともに、保護者向けの給食試食会を毎年計画するなど、給食の広報にも努めてきた。</p> <p>また、文部科学省指定事業や委託事業を積極的に活用し、関係機関や保護者と連携しながら、給食管理と食育の推進に取り組んだ。</p> <p>さらには、県立大学をはじめとする多くの生徒の実習の受け入れや職員研修会での講師を務めるなど後進の育成にも積極的に取り組んでおり、県内の栄養教諭の模範となっている。</p>
そ た みのる 曾 田 稔	島根県立出雲農林高等学校教諭	<p>平成22年度から海岸でのハマボウフウ（海岸に自生するセリ科の植物。砂の飛散を防ぐ役割もある。）の定植活動を生徒とともに続けている。行政の支援も受けながら出雲市立長浜小学校と連携しハマボウフウ定植活動を地域に根付かせた。</p> <p>また、ハマボウフウの増殖技術を開発し、JAと商品化を目指して協議を続けている。</p> <p>海岸の砂の飛散という地域の課題を新たな特産品化に変えて生徒とともに研究する取組は、地域課題の解決と地域産業の担い手育成に大きく貢献している。</p> <p>なお、その研究成果は、平成26年度日本学校農業クラブ中国大会で最優秀賞を受賞し、同全国大会で発表した。</p>

氏 名	所属・職	表 彰 の 理 由
たけ さき しゅう じ 竹 崎 修 次	島根県立出雲高等学校教諭	<p>平成25年度に文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の指定を受け、着任と同時にSSH副部長として、出雲高校独自の教育プログラムを開発し、その実践に尽力した。</p> <p>平成26年度には、スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業の指定も受け、全国でも10校程度のSSHとSGHのダブル指定となり、教育開発部（SSH部を改組）の初代部長として、またSSH・SGH事業の統括責任者として、校内の指揮にあたるとともに、大学との連携や外部指導者の招聘、海外研修の実施に尽力した。</p> <p>こうした取り組みは、SSH・SGH事業を核とした学校づくりに大きく貢献しており、その研究・実践は、県内の教員の模範となるものである。</p>
ひろ かね のぶ とし 広 兼 伸 俊	益田市立益田東中学校教諭	<p>長年にわたり中学校で音楽科並びに吹奏楽部の指導に精力的に取り組んできた。これまでの勤務校で指導した吹奏楽部では、各施設や行事等において訪問演奏を行い、地域貢献に積極的に取り組み、平成27年6月には通算100回目の演奏を指揮した。</p> <p>また、生徒と地域の大人による「ウィサポートユニセフ・チャリティコンサート管弦楽アンサンブルと100人の吹奏楽」を15年間続けて指導するなど、管内音楽科教育の中心的存在であり、地域の文化活動の発展にも大きく貢献している。</p>
わた なべ ひろ ふみ 渡 邊 博 文	津和野町立津和野中学校事務リーダー	<p>平成4年度から平成9年度までと平成24年度から平成25年度までの通算8年間、島根県公立小中学校事務職員研究会の副会長として、県の学校事務の改善や職員の資質能力向上に尽力した。</p> <p>平成6年7月には全国小中学校事務職員研究会島根県支部副支部長兼全国大会副準備委員長として、全国大会の開催に尽力し、大会を成功に導いた。</p> <p>また昭和62年度から平成3年度までと平成27年度は益田教育事務所管内小中学校事務職員研究会会長として、地域の学校事務研究の先導的な役割を担ってきた。</p> <p>長年にわたる活動は、学校運営に必要な学校事務の確立に大きく貢献し、学校事務職員の後進の模範となるものである。</p>

(注) 上記の掲載順は、五十音順による。